



C:神田川・玉川上水コース

案内人：水の学校サポーター 内田さん

今回の見学コースは、50メートル崖線下にある井の頭公園を水源とする神田川と武蔵野台地の背を流れる玉川上水の流れが江戸時代に果たした水利の歴史と井の頭公園の地政学的・地形的な意味の学習と再発見を目的にしたものです。水の学校の受講生にとって水の循環の地表部分における身近な実地見学の好立地であり、学び・楽しむことのコンセプトを満喫できるコースです。井の頭公園内の台風24号の風害による倒木の惨状は衝撃的でしたが、水環境学習で樹木も含めた自然環境を学ぶ上では驚がく的な現象として多くの受講者の関心を惹起していました。

参加者からは、日頃から馴染みのある所だが、歴史や水路や流れる水の種類を整理しながら学習できたことへ感謝する意見が聞かれました。また、気が付かなかったことの学習を契機に更なる探求心が湧いたようです。

受講生は各期生ごとに特性があると思いますが、「水の循環」に関して共通の価値観を共有できることは大変有意義だと思います。よき友人たちとの出会いに感謝します。



受講生・サポーターの声より

- 普段何気なく歩いていたところが、歴史的な話を聞いて、見方が変わりました。
- 自然の水と下水等の処理水が共存して現在の環境を整えていることが理解出来ました。
- 3コース全て話を聞きながらまわりたい！
- 水・雨水・生活水の再生がうまくされているしくみがよくわかりました。
- 今回の散策を通して、私たちの生活や、歴史と水が深いつながりがあることを学びました。同じ班の皆様の知識にもたくさん助けられ、学びを深めることができました。
- 現実の川や人工川の交差などを見て、300年以上も前の人々の思考や土木技術の凄さに感動します。
- 仙川が武蔵野市唯一の一級河川であることに驚きました。ほとんど自然を残さずコンクリートや石のリメイクが施されていて水の流れも時間で制限されています。せめて一部だけでも自然を感じさせる場を作ってほしいです。
- 流域自治体全体の連携を望みます。

ステップアップ講座

10/24
(水)

旧三河島污水処分場唧筒（ポンプ）場施設見学

リポーター：水の学校サポーター 千原さん



柿の実が色づく澄みきった秋空のもと、私達“水の学校”一行二十名余は旧三河島污水処分場のポンプ場施設を見学致しました。バランスよく配置された赤レンガ造りの東・西阻水扉室、濾格室上屋、ポンプ室の建物は、簡素ななかにも気品がたよい東京駅舎、富岡製糸場の建物群と比較しても、何ら遜色がありません。また、馬蹄型のレンガ敷きの排水管の内部も、至るところ創意工夫がなされており、先人の下水道に対する熱い想いを知ることが出来ました。“汚れやすい処ほど美しく清潔に”と、建物全体が語ってくれているようです。まさに文化財にふさわしい施設と納得できました。

また説明者の方から「自宅の污水がどこの施設で処理されているか、知っておくがよいですよ」とのアドバイスを受けました。他市に処理を依存する武蔵野市民としては、処理施設の見学は今後必須と思われる。

施設の管理棟に、次の標語が掲げてありました。

「わすれない 暮らしをささえる 下水道」(小4)

この標語の実践を通して、すみ良い文化都市“武蔵野市”を確かなものにしていきたいものです。

最後になりますが、企画下さったサポーターの内田さん、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。本当に有意義な見学会でした。